

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区北砂5丁目20-9-101
施設名	亀高保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然

〈テーマの設定理由〉

普段から植物の観察や虫の観察、飼育に非常に興味関心のある子どもたちが多いこと。また季節に応じた木々の色づきや変化、気温の移り変わりなど日頃さりげなく過ぎ去っている四季の変化を学んだり、落ち葉や木の実の様子を詳しく調べたり、野菜や果物の朽ちていく様子を学んだり子どもたちの探求心や発見、感動が学びにつながると考え「自然」を選んだ。
--

2 活動スケジュール

★活動期間 令和6年11月～令和7年2月
★1・2歳クラス→秋から冬にかけての花を探したり、落ち葉を拾って形の違いや色や感触を何回かに分けて楽しみ、子どもたちの表情や言葉、写真を記録にのこしていく。子どもたちの感性や創意工夫をもとに落ち葉アートを楽しんだり、土や砂の違いを知り、また感触の違いなど土粘土遊びを楽しむ。
●11月：公園に行き落ち葉に触れながら落ち葉遊びをしたり花を探しに行く。
●12月：お花屋さんに売ってる冬の花を見に子どもたちと一緒に行ってみて、好きな色の花を購入する。購入した花を書画カメラで拡大しスクリーンに写してみる。江東区から譲ってもらったチュウリップの球根を植えて育てる。
●1月：花から色水を作ったり、白い花に色をつけてみたり、変化を楽しんだり、落ち葉アートを楽しむ。
●2月：土に触れながら土粘土を使って感触などを楽しんだり砂との違いに気づく。
★3歳クラス→公園や園庭で色々な秋の虫を探し、なんの虫なのかを絵本や図鑑やiPadで調べてみる。捕まえてきたアリの巣を作ってみようとなりアリの巣のキットを購入。アリが何を食べるのかなどを探求していく。
●11月：近隣の公園や神社のいろんな場所を調べて虫探しをする。アリの巣の観察キットを使って観察をする。
●12月：アリの巣の観察を継続する。
●1月～2月：アリは巣の中で命が尽きたことを理解し、みんなで土に返してあげる。
★4歳クラス→夏のスイカ割の時の種を使って子どもたちが色々な発送から種を植えてみることで色々な発見や探求に繋げていった。
●8月～9月：自分たちが食べたスイカの種を育て観察日記をつける。
●10月：成長した芽を大きくするために鉢を大きいものに変えてみる。
●2月：観察日記の発表をし合いお友達の気づきに共感する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

●準備した素材：秋から冬に咲く花、いろいろな色や形の落ち葉、松ぼっくり、どんぐり、土や砂、土粘土、アリの巣キット、種を育てるための廃材など。	●道具や環境の構成：一人一人が探索に使える虫眼鏡、持ち帰ったものを先生と一緒に調べるiPadや図鑑や絵本、集めて来たものを拡大して映し出す書画カメラやスクリーン、掲示に使う模造紙、子どもの様子を記録するためのデジカメやパソコンなど。また、保育室を映画館のように暗くしてスクリーンの映像が見やすくなるような工夫をした。
--	--

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

●1.2歳クラス：自然をテーマにして秋から冬にかけての花を子どもたちと調べどんな花があるかや、公園で色々な形や色の落ち葉や松ぼっくりやどんぐりをたくさん見つけ、持ち帰ってきたものを拡大できる書画カメラを通してスクリーンでみてたり、花びらで色水を作ったり、白い生花に絵具で色付けしたり、土や砂の感触の違いに気づくような遊びから土粘土を使って粘土遊びを楽しんだり、落ち葉アートを楽しんだ。

●3歳クラス：虫に興味関心が旺盛な子どもたちなので、自然をテーマにする中で夏の終わりから秋、冬に向けて虫ってどうやって暮らすの？と疑問を持ち、時期的にアリがたくさんいたことでみんなでアリについていろいろ調べてみるようになった。まずはどんな虫がいるのかをみんなで公園などに探しに行くところから始まった。見つけてきた虫が何なのかなど図鑑やiPadで調べていくうちにみんなでアリを観察することになった。アリの巣のキットを購入し何を食べるとかどんな砂がすきなんだろうとか巣の作っていく様子などを観察した。

●4歳クラス：夏に行ったスイカ割りの行事の時にたくさん集めたスイカの種をみんなでそだててみた。卵の透明パックに砂、土、水、色水、ティッシュをぬらした上に寝かせたりと子どもたちのアイディアがたくさん上がり、観察が始まる。最初に目が出たのは園庭の砂だったのでみんなで少し大きな鉢に植え替えた。芽のダル様子や伸びていく様子を観察して記録の為に観察日記を始めることになる。最終的にはかれてしまったが、みんなで記録した観察日記をみんなで発表し合い、振り返る機会を設けた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

●1.2歳クラス：公園の大きな木に穴が開いていると「だれれですか〜？」と声をかけたり、大きなはっぱを見つけて「わ〜、〇〇ちゃんの顔より大きいね」とか虫眼鏡をとおして「ここに穴があいてるね」や書画カメラを通して拡大したお花のつぼみをみて「あかあちゃんみたい！」と喜んだりしていた。そんな子どもたちに寄り添いながら子どもたちからでる感動や驚きや面白い発言からの言葉をしっかりと記録に残しながら、興味関心がさらに深まるような質問をしてみたり、疑問や質問がわいた時は、一緒に図鑑や絵本などで調べたりしてみると、次からは自分で絵本で調べようとしている姿などもみられた。保育士はできるだけ子どもの同士の会話には割り込まずそっと見守り、疑問や質問には丁寧に答えるように心掛けた。また、会話や気持ちがうまく表現しにくいときは架け橋の役割を心掛けるようにした。

●3歳クラス・4歳クラス：保育士はできるだけ多くの言葉をかけずにグループ単位や個々に子供の発言が湧いてくるように心掛けた。「アリは甘いものがすきなんじゃない？」「虫眼鏡はこんなに大きくみえてこわいね」「スイカは赤いから赤い水でいいんじゃない？」「なんか芽がげんきないね」などと子ども同士の会話がどんどんはずんでいく様子をそっと見守るように意識した。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今回のすくわくプログラムに参加することで、子どもたちの思いを言葉に表現する楽しさや面白さを知ることができた。子ども達も普段使わないような道具を使うことで、もっとみてみたい！もっと探したい！葉っぱの裏はこんな模様があるんだとか、どんどん興味関心が深まることに気づけた。自然というテーマは限りなく無限大に子どもたちの探求心や想像力を引き出す要素が秘めていて私たち大人も子ども目線での気づきに楽しませてもらえた。日頃見過ごしているようなことでも改めて意識して観察したり調べることで、新たな発見があり子どもたちの探求心がどんどん成長していくことに気づかされた。